

森林防疫ニュース

VOL. 4
No. 10
(No. 43)

林野庁 森林害虫防除室

1955. 10. 1

悲しき亡国運動

中西悟堂

秋の狐期ごとに、いぶり出すのが霞網を復活せよという運動である。しかし霞網は既に昭和22年に有害なものとして禁止になつているのを蒸し返しているのだから腑に落ちない。一地方的なものだからやらせても宜しかろうというのかもしれないし、一地方的なもの故に、空気銃ほど一般社会の輿論も強くないのかも知れぬが、現在全国少年の間に霞網流行の兆が見えて居り、万一これが燎原の火となつてからでは、手を焼くような事態となることは、ヒロボンやパチンコと同断であろう。今のうちに完全根絶を計らねば悔を千載にのこすに至る。

霞網の害は、ツグミの如き益鳥を滅ぼすことになるからで、ツグミがゾウムシ、コガネムシ、ハムシ、シヤクトリガ、シヤチホコガ、ヨトウガ、カメムシ、ハエ、カミキリムシ等々の農村山林の害虫を、冬季滞在中の半ケ年間に全体としては2千億匹も食除すること、また春の渡去前には稲の切株にひそむ大害虫二化螟虫を好んで食べることに、さらに山林から平野へ下つての冬季は耕地に穀類のない時期である等、どの観点からするも、殆んど無害にして大益のある国家資源上の有数な益鳥であることは、もはや贅言の必要もない。カンラダカやアトリにしてもシヤクトリガやバツタを多食して居り、些少の穀類を食べるとしても農家の不始末から地上にこぼした穀類以外のものでないことは、冬に食べている点からも容易に判断できよう。これらの渡り鳥を殆んど絶滅に近からしめてから害虫の発生にあわてるなどは天に唾する愚行としか申せまいし、慾（金慾、食慾、ボス慾）のためにこの愚行を冒すことが、ひいては青少年間の風潮となつては、亡国の愚民となり下る。

もう一ついけないことは、霞網にはウグイスでもメジロでもシジュウカラでも皆かかるので、その地方のあらゆる益鳥を一網打尽にするという恐るべき副作用がある点である。こうして人間が自然の均衡の一角を破れば、害虫の蔓延から、ひいては諸々の大災害を誘発することは目に見えて居り、折角の国をあげての国土緑化も空念仏となり終ろう。

農作物の害虫を抑制するために霞網を禁じてほしいという農村からの訴えによつて、ピタリとこれを禁止したイタリーの歴史はすでに古いし、文明国で斯様なバカなことをやつている国は一国といえどもないのである。

ペリーが下田に来た時、偶々伊豆半島に上陸した米海兵が2羽のキジを射つたことから下田町民の激怒を招いたことはオースチン博士も言つていたが、かほどに文化的であつた国民が、僅々百年にして斯様な亡国運動に夢中だとは正に歴史の逆行であろう。（日本野鳥の会会長）

情 報

◇ 被害速報 病 害

- スギの赤枯病
- スギの黒粒葉枯病

京 都 京都市左京区花背の8年生スギに発生、6月21日発見。被害面積100町。遠望すると山火のようである。

(京都林出・田口 経指 8. 30)

○ スギの黒点枝枯病

山 形 秋田局真室川署安楽城経営区67、い小班（最上郡安楽城村大字大沢字小又）の30~40年生スギに発生、7月31日発見。被害面積89町。被害は林縁、林内ともに発生、樹冠下部に多発し、鮮紅色を呈している。（真室川署 8. 15）

○ ヒノキの漏脂病

東 京 三宅島坪田村大字大路池の村有林内の仮植苗畑の4年生ヒノキに発生、8月5日発見。被害面積1畝、被害本数50本。被害率20%。

(都三宅支庁・柿沼豊三郎 8. 7)

森林防疫ニュース

○ ヒノキの立枯病

佐賀 熊本局佐賀署佐賀管区56, フ小班(佐賀市久保泉町大字下山の下山苗畑)の本年5月蒔付のヒノキ苗に発生, 6月3日発見。被害面積160m², 被害本数80,000本。被害発見当時は播付床面に点々と発生し, 被害面積30m²であったが, 7月9日130m²となる。防除のため6月3日5斗式ボルドウ液, 6月5日ウスプルン液, 6月9日水銀ボルドウ, ルベロン液, 7月11日水銀ボルドウ, 7月14日ウスプルン液の散布をそれぞれ行つた。(佐賀署 8. 1)

病虫害

- カラマツのすす病
- カラマツオオアブラムシ
- ハマキガ科の1種
- コガネムシ科の1種

長野 北佐久郡協和村字細山の県行造林地の3~5年生カラマツ人工林に群状あるいは点状に発生, 7月7日発見。被害面積中害2町, 微害30町, 被害本数8,050本。被害はコガネムシ科の1種が本年初めて発生した以外は, いずれも昨年からの発生しているものである。昨年は初めハマキガ科の1種により, 約5町が一見枯死状態となり, 次いで, カラマツオオアブラムシによつて, カラマツのすす病が併発した。現在カラマツオオアブラムシは樹幹の周囲, 特に新梢の部分に, ハマキガ科の1種は新葉の先端に, コガネムシ科の1種は被害林の全面に散在している。

(北佐久地事・小林高夫)
県 7. 27)

- オオキンカメムシ

石川 江沼郡下の三木, 三谷の両村内の12年生アブラギリに発生, 8月10日発見。被害面積1町。桐実の被害甚大。

(県・向本欲覚 Sp. 8. 27)

- アブラムシ科の1種
- オオスジコガネ
- コガネムシ類

岩手 岩手郡滝沢村大字滝沢の2年生カラマツ人工林に発生, 7月28日発見。被害面積激害40町, 中害20町。被害は本年初めて発生した。被害は岩手山麓火山灰地帯の100町の人工林に発生して, 既に半分以上が真赤になつている。現在1樹に150~200頭ぐらい付いている。天敵シオヤアブも発生している。(県 7. 29)

- アブラムシ科の1種
- スギハムシ

宮崎 熊本局高崎署霧島管区47, ろ小班(北諸県郡西岳村)の6年生アカマツ人工林に発生, 7月22日発見。被害面積約1町, 被害本数3,000本。(署 8. 4)

○ スギマルカイガラムシ

島根 隠岐島西郷町池田区の3~4年生スギ人工林に発生, 8月1日発見。被害面積4反。被害は本年初めて発生した。5~6月頃から発生したものと認められる。本虫はスギの枝, 針葉に吸着し, 下部から漸次上方に拡り, 樹液を吸っている。微害木は枯死し, 被害木の大半は枯死に瀕している。駆除のためBHC粉剤γ3%を6kg散布し, 被害木は焼却した。

(隠岐支庁・酒井 8. 13)

○ コウモリガ

埼玉 秩父郡下の横瀬村大字横瀬, 高篠町大字山田の植栽後2年目のスギに発生, 7月5日発見。被害面積1町, 被害本数50本。被害木の根際部は木屑および虫糞を糸でつづつたものでおおわれている。駆除のため7月22日穿入孔から黄燐剤を綿につけて差しこみ, 孔口を粘土で密閉し, なお周囲の塵芥類を除き, 雑草木類の刈払いをも行つた。(農務事・佐野広次 Ag. 8. 20)

○ マツツマアカハマキ

新潟 新潟市山ノ下県立聾学校校庭の4~5年生クロマツに発生, 8月11日発見。被害面積2反, 被害本数400本。被害木は新梢が食害され, 黄褐色になつて枯死している。駆除のため被害部を切りとり, 虫体とともに焼いた。

(県・長谷川行衛 8. 17)

宮崎 熊本局高鍋署高鍋管区81, ひ小班, その他(児湯郡下の高鍋町, 富田村)の1~8年生クロマツに発生, 7月22日発見。被害面積24町, 被害見込本数44,000本。被害率は20%~50%, 平均して35%に達している。

(高鍋署・吉永茂孝 7. 30)

○ マツノコマダラメイガ

青森 青森局鯉ヶ沢署屏風山管区1, ろ小班外33ヶ小班(西津軽郡車力村大字通行道国有林)の4~32年生クロマツ人工林に発生, 7月28日発見。被害面積約179町, 被害本数約9,000本。被害は昭和27年にも大発生し, 当時駆除のため被害頂芽を摘除, 焼却した。今年も同じ方法を行う。

(鯉ヶ沢署車力担当・沢田要治 8. 5)

福島 双葉郡竜田村大字井出字木屋の3~5年生アカマツ, クロマツの人工林に発生, 5月19日発見。被害面積激害2反, 中害4反, 微害4反。被害は本年初めて発生した。駆除のため5月19, 20の両日, 所有者の協力によつて被害枝の剪取り幼虫の捕殺を行つた。(県 8. 11)

○ マツカレハ

福島 岩瀬郡鏡石村大字笠石字勝五郎窪の7~8年生アカマツ天然林に群状に発生, 5月28日発見。被害面積中害3反。被害は本年初めて発生した。駆除のためBHC粉剤γ3%を散布した。

森林防疫 ニ ュ ー ス

伊達郡下の梁川町大字細谷、字深沢。大字新田字愛宕山、熊脇の5年生(5反)、20年生(10町)、40年生(10町2反)のアカマツ人工林に団状に発生、7月4日発見。被害面積激害7反、中害2町、微害18町。被害は本年初めて発生した。

霊山町大字掛田字袋沢付近の古城山を中心とした20~30年生アカマツ天然林に発生、7月1日発見。被害面積激害6町、中害2町、微害3町。被害は昨年から発生していた。駆除のため公有林の分に対してはBHC粉剤 γ 3%を散布したが残余の分は、捕殺、誘殺を行った。

安達郡安達町大字成田字田向の8~10年生アカマツ天然林に群状に発生、5月21日発見。被害面積激害1町、中害7反、微害8反。被害は本年初めて発生した。駆除のためBHC粉剤 γ 1%を反当6kgの散布を行った。

田村郡田村町大字山中字日照田の10年生アカマツ人工林に点状に発生、5月30日発見。被害面積激害5反、中害1町2反、微害7反。被害は本年初めて発生した。駆除のためBHC粉剤反当5kgの散布を行った。

須賀川市内の森宿字背戸の13~15年生アカマツ天然林に発生、5月6日発見。被害面積激害1反5畝、中害5反3畝。枯損材積0.3石。被害は昭和27年、この地にマツツマアカハマキの被害が発生したことがある。駆除のためBHC粉剤 γ 3%を反当12kg散布した。大字袋田字鋼山の3年生のアカマツ人工林に発生、5月28日発見。被害面積微害2町8反。被害は本年初めて発生した。駆除のため発見と同時に捕殺と移動遮断を行った。大字六軒字館下の17~18年生アカマツ天然林に発生、6月8日発見。被害面積微害3反。被害は本年初めて発生した。駆除のためDDT乳剤5%を反当15kgの散布を行った。大字前田川字狐山の15~30年生アカマツ天然林に発生、6月5日発見。被害面積中害6反。被害は本年初めて発生した。駆除のため6月上旬~7月上旬、繭の採取を行った。

西白河郡泉崎村大字泉崎字十八夜の25年生アカマツ天然林に発生、5月25日発見。被害面積中害10町。被害は昨年から発生していた。駆除のためBHC粉剤 γ 3%の散布を行った。

双葉郡刈野村大字立野、刈宿、酒田の4~35年生アカマツの天然林および人工林に発生、6月1日発見。被害面積激害12町、中害25町、微害35町。被害は昭和28年頃から僅かに発生していたが、昨年から増大し初めた。被害地は天然林、人工林とも単純林で成育良好である。駆除のため激害地の半数を占める幼令林においては幼虫、蛹の捕殺を行い、その他はBHC粉剤の散布を行った。

相馬郡小高町 および 付近隣接町村の3~40年生のアカマツ、クロマツの天然林および人工林に発生、4月25日発見。被害面積激害455町、中害405町、微害360町。枯損材積35,000石。被害林は鉄道沿線に沿ったアカマツ、クロマツ林で、所々に完全に枯死した部分がある。被害は昨年から発生し、管内民有林500町に被害があり、森林組合の指導のもとに薬剤駆除と捕殺を行ったが、完全駆除が行えなかつたがために本年大発生した。

(県 8. 11)

長野 上伊那郡西春近村字安岡の8年生アカマツ天然林に群状に発生、6月10日発見。被害面積中害10町8反。被害は本年初めて発生した。被害林は大半が平坦地で、広範囲に平均に被害が発生している。付近一帯に30町にわたるアカマツの幼令林があり、特に展示林を設けた優良林であるので、蔓延するかとおそれられている。駆除のためBHC粉剤の散布を行った。

伊那市大字伊那部字南原付近の4~15年生アカマツの天然林および人工林に群状に発生、6月23日発見。被害面積激害8町、中害3町。枯損材積200石。被害は昭和28年に発生したが、軽微であつたため放置していたが、附近南方300mのマツ林には1昨年大発生したことがある。駆除のためBHC粉剤の散布を行った。

(上伊那地事・登内 強 Ag.)
県 7. 21)

駒ヶ根市大字赤穂下平字大田原の7~8年生のアカマツ天然林に群状に発生、6月20日発見。被害面積激害5町、中害3町5反。枯損材積8石。被害は昨年から発生していたようである。被害の発見がおくれた。駆除のためBHC粉剤の散布を行った。

上伊那郡高遠町大字西高遠字鉾持山の33年生アカマツ天然林に群状あるいは点状に発生、6月28日発見。被害面積激害1町。被害は本年初めて発生した。駆除のためBHC粉剤 γ 3%の散布を行った。

(上伊那地事・登内 強 Ag.)
県 7. 27)

香川 大川郡下の鴨部村大字中筋の5~20年生アカマツおよび志度町大字鴨庄の15~40年生アカマツに発生、8月23日発見。被害面積激害3町、中害5町、微害25町。枯損材積300石。被害は数年前から発生していたが、本年急に激甚となつた。被害は特に樹勢の衰えたものが甚しい。

(県 8. 30)

佐賀 熊本局武雄署武雄経営区37、ろ・ろ1の各小班(伊万里市山代町)の55年生アカマツに発生、8月8日発見。被害面積32町、被害本数6,850本。

(武雄署 8. 11)

森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

- マツカレハ
○ マツクイムシ
福 島 白河市大字鬼越道下の50~80年生アカマツ天然林に発生, 5月10日発見。被害面積中害4町。被害は昨年から発生していた。駆除のためマツカレハに対してはBHC粉剤の散布を行い, マツクイムシに対しては餌木誘殺を行った。
(県 8. 11)
- キオビエダシヤク
鹿 児 島 熊本局内之浦署内之浦経営区16, を小班(肝属郡内之浦町)の17年生イタマキに発生, 7月28日発見。被害面積3町, 被害本数500本, 被害材積10石。全林の約半数が加害されている。被害木の50%程度が枝, 葉が枯損している。駆除のためBHC粉剤 γ 3%の散布を行った。
(内之浦署 7. 29)
- ミスジツマキリエダシヤク
宮 崎 熊本局高岡署内山経営区18, は。この各小班的5~10年生ぐらいのスギ人工林に発生, 7月21日発見。被害面積5町。被害は葉の疎について, やわらかいものに多く, 峯通りに多発している。
(高岡署 8. 11)
- ウチジロマイマイ
長 野 長野局管内の福島署内の越経営区, (西筑摩郡福島町八沢入国有林)および岩村田署浅間経営区, (北佐久郡小沼村塩野苗畑)の40~220年生に発生, 7月14日発見。八沢入国有林被害面積約2町, 塩野苗畑被害本数約20本。被害木の葉は赤褐色となる。7月中旬幼虫および蛹を多数見ると。7月下旬羽化する。
(林試木曾・伊藤武夫 8. 4)
- スギドクガ
岐 阜 恵那市東野花無山の2~3年生スギに発生, 8月12日発見。被害面積1反。被害木は枯死にひんしている。
(県 C29区・横家太郎経指 8. 12)
(県 恵那市・堀江竜夫 Ag.)
- サラサヒトリ
福 島 田村郡田村町大字大供字石倉の8年生クスギ人工林に点状に発生, 6月6日発見。被害面積中害2町, 微害1町。被害は本年初めて発生した。駆除のためBHC粉剤 γ 3%を反当2~3kgの散布を行った。
(県 8. 11)
- ナミガタチビタマムシ
石 川 石川郡鶴来町一円の30~50年生ケヤキに発生, 8月9日発見。被害本数500本。
(県・向本欲覚 Sp. 8. 12)
- 珠州郡大谷町の30~50年生ケヤキに発生, 8月26日発見。被害本数200本。被害木は全葉が食われている。
(県・向本欲覚 Sp. 8. 27)

- カタビロトゲトゲ
京 都 船井郡園部町西本梅の20年生栽培グリに発生, 8月2日発見。発生面積2町。現在被害は認められないが, 初めて発見した。
(府・安村亜雄 Sp. 8. 30)
- スギハムシ
三 重 志摩郡阿児町甲賀字岡畑の1年生マツに発生, 7月29日発見。被害面積激害5反, 中害5反。
(志摩地事・東 利雄 Ag. 7. 30)
- 京 都 亀岡市内の下矢田町医王谷および古世町千歳山の6~7年生アカマツ, 5年生スギに発生7月7日発見。被害面積中害120町。
(南桑田地事・黒石 Ag.)
(県・安村亜雄 Sp. 8. 30)
- 京都市内の東山区内の今熊野, 山科。左京区岩倉花園の7~10年生アカマツに発生, 7月21日発見。被害面積山科激害2町, 今熊野中害10町, 岩倉中害2町。
(岩倉森組・沢田理事 8. 30)
(京都林出・服部 昭 Ag.)
- 福知山市長田野町の3~5年生アカマツ林に発生7月26日発見。被害面積150町。
註 この被害はIV. 8 p. で既報したが, その後の調査で被害が拡大していることが判つた。
(天田地事・渡辺義厚 8. 30)
(府・安村亜雄 Sp.)
- 奈 良 北葛城郡二上村大字穴虫, 屯鶴峯の5~7年生アカマツ天然林に発生, 8月1日発見。被害面積約18町, 被害本数108,000本。被害は下刈りに入山して初めて発見した。被害地は二上火山群の1部で, 土質は極めて瘠悪化し, 各所に禿瘠地を露出して, アカマツの生育が概して不良のところである。次回発生にそなえ, 幼虫の調査を行っている。
(県・村田武彦 Ag. 8. 11)
- 鳥 取 八頭郡智頭町大字智頭の6~8年生スギ人工林に発生, 7月1日発見。被害面積微害14町3反, 被害本数42,900本。被害は昨年から発生し, 昨年は激害を受けた。駆除のためBHC粉剤 γ 1%の散布を行った。
(県 7. 21)
- 福 岡 田川郡勾金村大字柿下および呉の1~10年生マツに発生, 7月25日発見。被害面積約10町, 被害本数40,000本。被害地においては既に枯死したものもあり, 微害地においては針葉が枯れている。又二次的にアブラムシの1種が発生している。
(田川地事・国分 満 Ag. 8. 17)
- 粕屋郡宇美町大字宇美字鏝倉山の6~7年生のマツに発生, 7月20日発見。被害面積約1町, 被害本数3,000本。
(宇美町宇美・安河内文作 8. 2)

森林防疫 ニ ュ ー ス

佐 賀 神崎郡東背振村の5~8年生スギ, ヒノキ, アカマツの部分林に発生, 7月25日発見。被害面積激害5町, 中害20町, 微害15町。被害は昨年7月発生したが, 被害は軽微であった。本年は6月下旬頃から発生していたようである。被害地はメザサ, カヤ, クズ, その他の雑草におおわれた下刈不十分なところであるが, 雑草におおわれたものは, 被害が軽微である。現在成虫は認められない。被害甚大で枯死したものも相当にあり, 改植せねばならない箇所も所々にある。

(県林試・井幡清生 Sp.)
(佐賀県林試 7. 29)

大 分 臼杵市目明, 藤の尾の3~18年生マツ人工林および3年生スギ人工林に点状に発生, 7月12日発見。被害面積激害5反, 中害3町1反, 微害3町1反。被害は本年初めて発生した。駆除のためBHC粉剤 γ 1%の散布を行った。

(県 7. 27)

○ ハムシ科の1種

北海道 厚岸郡済中村字後静のナラ, ハンノキ, カバ, アカダモ等の天然林に群状に発生, 6月21日発見。被害面積150町。被害は小径木, 大径木のいずれにも発生している。

(根室署・太刀川明治 8. 1)

○ マツノトビイロカミキリ

京 都 亀岡市千歳町の土場集積のアカマツの素材に発生, 7月13日発見。被害材積5,000石。被害は素材の剝皮が完全に行われていなかったことに原因するものと認める。

(千歳町七谷川森組長・山田徳三)
(府・安村重雄 Sp. 8. 30)

○ マツノトビイロカミキリ

○ マツノシラホシゾウムシ

○ マツノキイロコキクイムシ

新 潟 前橋局村松署赤泊官行造林地4, い・ろ。5, ろ・は。6, い・ろの各小班(佐渡郡赤泊村)の28~31年生アカマツに発生, 8月6日発見。被害面積1町, 被害本数40本, 被害材積16石。被害は保護巡視中に発見したもので, 直ちに被害木を伐倒, 焼却した。目下のところ被害は蔓延していないと認めるが, 厳重に監視を行っている。

(村松署長 8 15)

○ アカタマゾウムシ

北海道 函館局俱知安署俱知安経営区29, へ。52, は・に各小班(虻田郡京極村大字脇方, ペーペナイ)の4年生, 7年生ヤチダモに発生, 8月10日発見。被害面積18町, 被害本数37,500本。幼虫が葉裏に付着して, 葉肉を食害し, 葉脈および葉表は薄く残っている。

(京極村京極・阿部正義 8. 25)

○ マツノシラホシゾウムシ

千 葉 松戸市三丁目

市川市国府台

上記両市の30~70年生アカマツ, クロマツの松並木に発生, 8月16日発見。被害面積約4反。枯損本数25本, 被害本数256本。

(松戸市・津谷酉太郎 Ag. 8. 17)

○ ゾウムシの1種

石 川 河北郡金沢村一円の本春植栽したスギ人工林に発生, 8月6日発見。被害木は樹皮下を食害されて, 被害が甚大である。附近にマツ林があるが, 被害はスギに発生している。同定依頼中。

(河北地事・竹内 城 Ag. 8. 12)

京 都 京都市山科の10年生栽培グリに発生, 7月21日発見。葉を加害し, ために落葉している。

(京都林出・田口 経指 8. 30)

○ ゾウムシの1種

○ マツノキクイムシ

宮 城 青森局古川署栗駒経営区(栗原郡栗駒町大字松倉唐山団地, 鳥天崎, 鳥沢団地)の20~30年生アカマツ林に発生, 7月28日発見。被害面積14町, 被害本数28,000本, 被害材積1,400石。被害林には昨年および本年マツカレハが発生したが, 7月中旬頃から本書虫が発生し初めた。

(古川署・鈴木 8. 1)

○ カラマツヤツバキクイ

長 野 南佐久郡平賀村大字瀬戸の農林省長野種畜牧場の防風林の48年生カラマツ林に発生, 8月3日発見。被害面積1反。枯損本数16本。被害本数激害14本, 微害12本。被害材積90石。

(南佐久地事・上村武夫 Ag. 8. 6)

○ マツノキイロコキクイムシ

石 川 江沼郡山代町の小学校庭園木の50年生アカマツに発生, 7月20日発見。被害本数6本。被害木は伐倒, 中害木は被害枝を除去し, DDT油剤の散布を行った。

(江沼地事・北田幸男 Ag. 8. 26)

山 口 柳井市平の15~100年生マツに発生, 8月20日発見。被害本数745本, 被害材積1,198石。被害は全島に発生し, 拡大している。

(柳井市・境元 叩 8. 27)

○ マツノキクイムシ

岩 手 青森局盛岡署姫神経営区65, い。66, は・との各小班(岩手郡玉山村大字玉山)の約40年生アカマツ天然林に発生, 8月9日発見。被害本数3本, 被害材積2石。本虫はカラマツおよびヒノキ人工林内の天然生アカマツの立枯木から発見した。現在のところ附近の立木には異状がない。

(盛岡署玉山担当・菊池 玄 8. 16)

森林防疫ニュース

江刺郡江刺町玉里字中沢の15~35年生アカマツ天然林に発生、7月21日発見。被害面積微害5町。被害は本年初めて発生した。駆除のため被害枝の剪除、焼却。餌木誘殺を行つている。

(県 7. 29)

福島 東白川郡矢祭村大字山下字松山の土砂流出防備林の10~40年生ヒメコマツ天然林に発生、7月11日発見。被害面積激害70町。被害は本年初めて発生した。被害林地内にヒメコマツは約10,000本点在している。駆除のため餌木の設置、被害木の伐倒、焼却、あるいは被害枝の剪除を計画しているが、制限林であり、且つ、過般択伐した残存木であるため、伐倒には直接指導の必要がある。

(県 8. 11)

群馬 吾妻郡原町大字原町の町有林内の30~40年生アカマツ天然林に発生、7月6日発見。被害面積2町。現在被害は軽微であるが、被害面積は増加する見込。

(県 8. 11)

宮崎 熊本局美々津署尾鈴経営区7~14林班の12ヶ所(児湯郡都農町大字川北)のアカマツ、クロマツに発生、7月発見。被害古有面積1町1畝。(区域面積207町1反9畝)。被害本数23本、被害材積89石。駆除のため伐倒、剥皮、焼却を行つた。

(美々津署・庄屋義雄 8. 13)

○ オオスジコガネ

北海道 函館局俱知安署俱知安経営区5, へ。134, への各小班(虻田郡俱知安町大字未広, 山田両国有林)の昭和26年度植栽カラマツ人工林および昭和16年度植栽トドマツ人工林に発生、7月10日発見。被害面積26町。被害木は葉が食害されているが、枯死したものはない。現在のところ被害は軽微である。

(俱知安署俱知安担当・深尾 忠 8. 8)

長野 諏訪郡富士見町大字立沢1の10の2~5年生カラマツ人工林に発生、8月1日発見。被害面積激害50町, 中・微害100町。被害本数60,000本。駆除のためBHC粉剤 r 3%の散布を行つた。隣接国有林にも発生が認められる。

(諏訪地事 8. 15)

滋賀 滋賀郡堅田町大字上竜華の5年生スギ, ヒノキ人工林に発生、8月5日発見。被害面積約2町。被害は特にスギの針葉および樹梢部の食害が甚大で、針葉が皆無のものもある。

(堅田町・高橋大蔵 Ag. 8. 10)

大分 竹田市
直入郡久住都町

上記両地の5~30年生スギ, ヒノキ, 5~50年生マツに発生、7月26日発見。被害面積57町。枯損材積200石。被害は現在蔓延しつつある。

(県・鷹居 昭 7. 29)

○ スジコガネ

青森 青森局大間署大間経営区11, に、小班(下北郡大間町大字大間)の昭和27年4月植栽のスギ, カラマツの人工林に発生、昨年9月28日発見。被害面積3反。被害は枝端の葉が食害されているが著しい程度ではない。現在スジコガネは産卵期にあるものようで、盛んに枝から地上にころげ落ちている。

(大間署 7. 29)

○ コガネムシ科の1種

京都 相楽郡棚倉町の当年生ボカスギ挿木苗畑に発生、6月7日発見。被害本数500本。駆除のためBHC水和剤400~500倍の散布を行うとともに、乾燥防止を指導している。

(相楽地事・井上藤治 Ag. 8. 30)

○ マツノキハバチ

福島 双葉郡竜田村大字井出字木屋の3~5年生アカマツ人工林に発生、5月15日発見。被害面積激害3反, 中害4反, 微害5反。被害は従来から多少あつたようであるが、本年になって増大した。駆除のため5月20~23日の間、BHC粉剤, およびDDT粉剤の散布を行つた。なお繭の採取捕殺を計画している。

(県 8. 11)

○ クリタマバチ

福島 伊達郡桑折町大字松原, 平沢の3~20年生クリ天然林および人工林に発生、5月20日発見。被害面積激害100町。栽培グリの被害面積3反6畝, 被害本数110本。被害は昨年発生し栽培グリの被害木4本を駆除した。駆除のためゴールの採取を行つている。

信夫郡下の信夫, 松川, 飯坂の各町村。

伊達郡下の大庭, 佐倉, 立子山の各町村。

福島市の荒井土湯, 渡利, 岡山の各町村。

上記各地の5~30年生のクリ天然林に発生、5月14日発見。被害面積激害750町, 中害1,250町, 微害4,560町。被害は昨年度から発生した。被害は薪炭林中に平均10%程度に混じているツバグリに発生している。

(県 8. 11)

長野 上伊那郡下の上片桐村一円の5~45年生クリ天然林に群状に発生、5月10日発見。被害面積激害5町, 中害25町。被害は昨年から僅かに発生していた。駆除のため対策委員会を設けた。

片桐村一円の10年生クリ天然林に群状に発生、6月10日発見。被害面積激害4町, 中害1町。被害は昨年発生していたらしいが、発見出来なかつた。駆除のため対策委員会を設け、虫瘻採取, 枝卸, 伐倒等を統一して行つている。付近の栽培グりに蔓延するおそれがある。

(上伊那地事・登内 強 Ag.)
県 7. 20)

森林防疫ニュース

静岡 東京局千頭署千頭経営区318, は。319, ろ。320, ほ。321, い・ろ。322, へ。323, ろ。325, は。327, い。335, と。336, ろ。345, ろ。346, はの各小班の30, 60, 150の各年生天然林および12, 15, 22, 29, 44, 50, 52の各年生人工林に発生, 7月上旬発見。被害面積微害1反3畝, 被害本数165本, 被害材積50石。枯損本数44本, 枯損材積12.9石。被害は本年初めて発生した。被害木はいずれも天然生広樹林, 人工林, 採草地内に点在するものである。

(東京局 千頭署)
7. 27)

○ スギノハダニ

京都 京都市右京区越畑の4~7年生スギ人工林に点状に発生, 8月2日発見。被害面積2町; 被害本数2,000本。被害が蔓延するおそれがある。駆除のため石灰硫黄合剤の散布を行った。

(京都林出・服部 Ag.)
府・安村重雄 Sp. 8. 9)

鹿児島 熊本局上屋久署上屋久経営区26, に・ほ・へ・と・ち・れ・そ・つ・た・をの各小班(熊毛郡上屋久村)の4~8年生スギに発生, 8月24日発見。被害面積12町, 被害本数7,500本。被害木の枝葉は黄変し, 特に新芽の部分の被害が甚しい。発生量が多い。駆除のため発見と同時にDN剤の散布を行った。

(上屋久署・兵頭正明 8. 28)

獣害

○ ノネズミ

長野 長野局飯田署(下伊那郡平谷村官行造林地16林班)の23年生ヒノキに発生, 7月11日発見。被害面積15町, 被害本数2,000本。被害は全林に発生し, 植栽木の根元と露出した根の樹皮が食われている。枯損したものもある。

(飯田署 8. 3)

○ ムササビ

群馬 勢多郡荒砥村大字二之宮の10~12年生スギに発生, 8月15日発見。被害面積1反, 被害本数15本。被害木の梢端2~3m以上が剥皮され, 枯れている。

(勢多地事・Ag. 8. 25)

○ ノウサギ

愛知 県下の6月現在の被害面積合計617町。各郡下の被害面積は次の通りである。

西加茂郡 490町。
愛知郡 5町。
宝飯郡 106町。
南設楽郡 11町。
額田郡 35町。
幡豆郡 8町。
東加茂郡 12町。

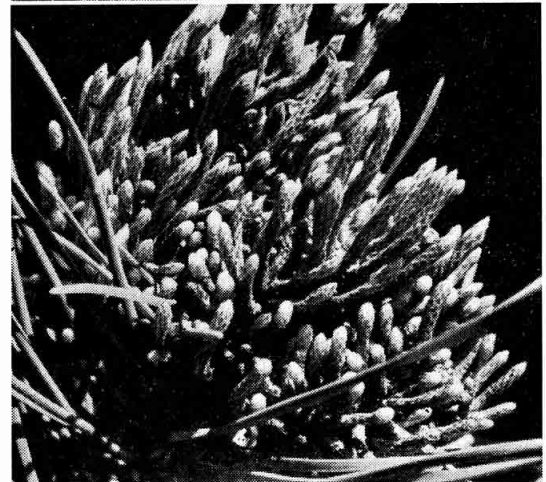
(県 7. 11)

◇ 詳 報

クロマツ芽の畸形

—神奈川—

神奈川県高座郡海老名町大字柏ヶ谷の7~8年生のクロマツに発生しているのを, 7月23日1本発見した。このクロマツの芽は多数に分岐している。芽は葉を開かない。この畸形芽は従来も湘南地方の海岸で時々見かけているが, いずれも小形のものであった。ここに紹介したものは従来のものに比して極めて大形のものである。原因その他については, 林業試験場に調査をお願いしている。



上図 クロマツの芽の畸形
クロマツの芽が多数に分岐して天狗巣状となる。

下図 多数に分岐した芽
神奈川県高座郡海老名町柏ヶ谷

7. 23. 1955 写

(神奈川県林務課・加藤銈治 Sp.)

解 説

四国西南海岸のウバメガシに
大発生した2種の蛾
(ウバメガシの新害虫2種)

石 原 保

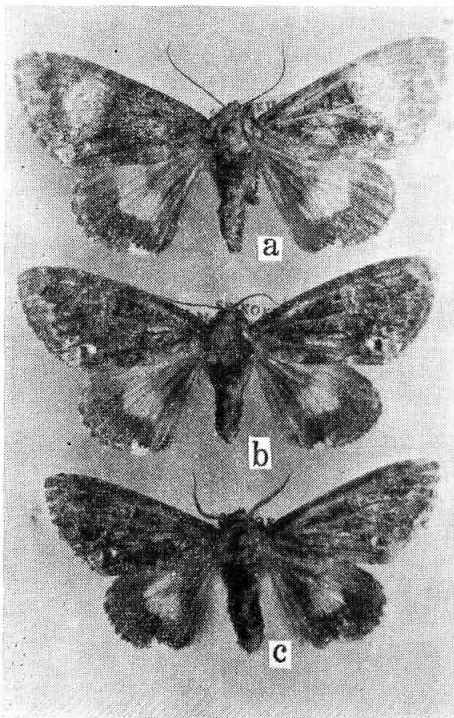
四国の西南、宇和島市附近の海岸のウバメガシ *Quercus phylliraeoides* A. GRAY の林に本年大発生し被害地には葉も止めぬ惨状を与えた2種の蛾の幼虫があつた。飼育して羽化させたところ何れも四国からは未記録の、又、ウバメガシの害虫としても未知の種であつた。種々の未詳の点は目下研究中であり、茲には予報の意味で報告する。

1. *Trisuloides sericea* Butler, 1881

ホリシヤキシタヤガ [松村, 1931]

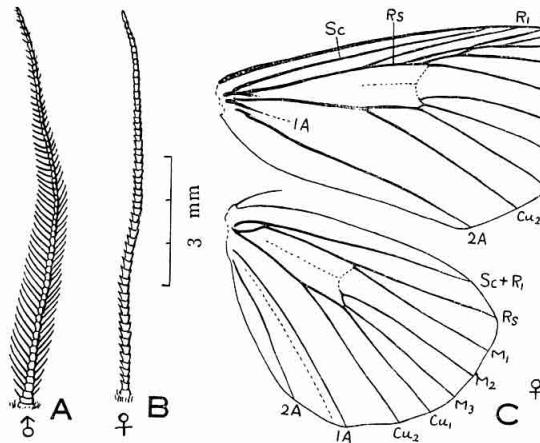
Trisuloides sericea BUTLER, 1881, Ann. Mag. Nat. Hist., (5), 7: 36 ["Shillong, Assam and Darjiling"]; HAMPSON, 1894, Faun. Brit. Ind., Moths, 2: 436, f. 247 ["N. W. Himalayas; Sikhim; Shillong"]; WILEMAN, 1911, Trans. Ent. Soc. London, (1911): 244 ["♂ ♀. Hondo (Yoshino and Nakasho). July, September and October; Central China", etc.] 松村, 1931, 日本昆虫大図鑑, 855 [ホリシヤキシタヤガ. ♀. "台湾に産するも少なし".]; 河田, 1950, 日本昆虫図鑑, 増訂版, 759, f. 2140 [♂. "九州, 台湾, 中国, 印度. 10月に出現す".]; 杉, 1955, 駿河の昆虫 [勝], No. 10: 244 [本州 (静岡, 兵庫), etc.].

ヤガ科の1種。既知の産地は上記のように印度, アッサム, 中支, 台湾及び日本 (九州, 本州) となり, 四国に分布する事は当然期待される種である。本年5~6月頃, 宇和島市附近石応のウバメガシの約8反歩200石にその幼虫が大発生して惨害を加えた。やがて老熟した幼虫は樹葉間に粗菌を営み, 次いで6月中旬に羽化した。蛾は雌雄略々同様の色彩を有するが, ♀の中には前翅の中央



↑ 第1図 ホリシヤキシタヤガ
Trisuloides sericea BUTLER
a, 前翅に白斑を現す♀;
b, 通常の♀;
c, ♂.

第2図 ホリシヤキシタヤガの触角と翅脈 →
A—B, 触角 (A, ♂; B, ♀);
C, 翅脈.



部より少々翅頂に近く白斑を装う個体がある〔第1図, a〕。又, 形状も略々同様であるが, ♂の前翅頂は♀より少々尖り, 触角は♂では両羽状であるに反し♀では鞭状〔厳密に言えば有齒状〕であるから性別は容易に出来る〔第2図〕。本種の翅脈はウスベリヤガ亜科〔*Pantheinae*〕の1つの特徴として後翅の M_2 脈及び $1A$ 脈は他の脈と同様に発達している。その他の標徴については上記の文献を参照せられたい。天敵としては比較的大型のヒメバチ科の1種, *Pimpla* sp. が相当高い寄生率を示す。蛾は秋期, 9~10月にも採れる記録がある〔WILEMAN, 1911; 河田, 1950; 杉, 1955〕から日本では年2化するものと思われる。詳細は目下研究中であり, 防除対策に関しても, その生態的知見が明らかになつてからの事にした。

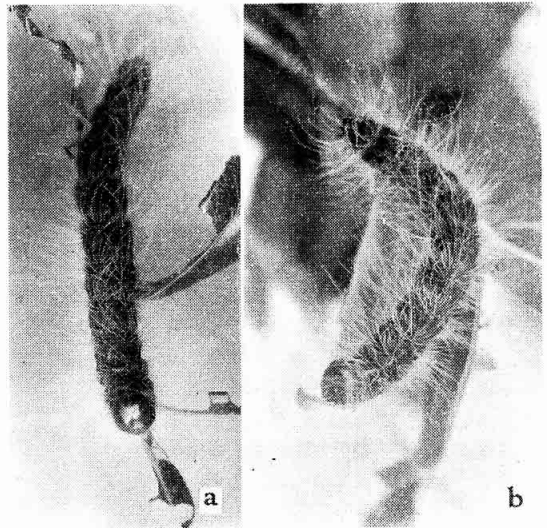
2. *Phalena minor* Nagano, 1916

コツマキシヤチホコ〔長野, 1916〕

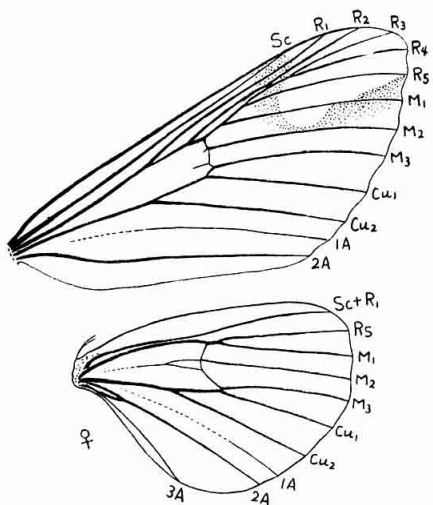
Phalena minor NAGANO 1916, コツマキシヤチホコ, 名和昆虫研究所報告, No. 1: 25, 7〔英文〕, Pl. 2: 1-5, Pl. 9: 22〔♂♀, 本州(岐阜). 寄生: クスギ, アベマキ. 8月22日羽化, etc.〕; MARUMO, 1920, J. Coll. Agric., Imp. Univ. Tokyo, 6 (4): 275 & 284〔Honshu: Gifu & Okayama〕; 丸毛, 1932, 日本昆虫図鑑, 1197, f. 2363〔本州〕; 丸毛, 1950, 同上, 増訂版, 703, f. 1971.

本種はこれまで本州のみから知られていたシヤチホコガ科の1種で, 食餌植物としてはクスギとアベマキが記録されている〔長野, 1916〕。本年の7月に, やはり宇和島市付近の, ホリシヤキン

タヤガの発生地に遠からぬウバメガシの林, 3町歩に汎つて大発生し, 前種同様の大害を与えた。最初我々は続いて発生したホリシヤキンタヤガと考へていたところが, 老熟幼虫は地上に下つて落葉下, 土中に蛹化し, 8月中旬に数日間に汎つて次々に本種が羽化して来た。本属 *Phalena* に所属する蛾は互いに酷似する種が少くないが, 本種は比較的顕著な種で, 前翅頂の橙白色の斑紋が M_2 脈を超えて後方に伸びていないので容易に同定し得る〔第3図〕。雌雄略々同様であるが, 一般に雌の方が体躯大型で, 触角の形状も♂では櫛齒状, ♀では鞭状を呈するため本種の性別も容易



第4図 コツマキシヤチホコの終齢幼虫 a, 背面図; b, 前側面図。



第3図 コツマキシヤチホコ *Phalena minor* NAGANO の翅脈

である。幼虫は白色の長細毛を装い静止中は尾端の3節を背方に反らす習性がある〔第4図, a〕。3~4齢は光沢ある赤褐色であるが, 5齢に至つて褐黒色に変じ, 体長7cm近くに達する。4齢までは好んで1ヶ所に群集しようとする習性があるので, それまでにBHCの散粉を行えば容易に駆除出来る。長野〔1916, loc. cit.〕は8月に羽化するものは飼育に依る異常個体で多分蛹のまま越冬, 5~6月頃羽化産卵するものであろうとしているが, 私の飼育した数10頭は何れも8月中に羽化した。自然状態に於ける周年経過も亦今後の研究に待たねばならぬ。

擱筆するに先だち私に同定を求め, 材料を提供された愛媛県林務課の渡辺乙彦技師, 手元のない文献複写の労を執られた九大の白水隆氏, 写真撮影, 飼育等に協力された当研究室の立川哲三郎, 宮武陸夫及び和気安明の諸氏に謝意を表する。

(愛媛大学教授 農博)

マツ苗の雪腐病（灰色かび病）

伊 藤 一 雄

マツ類はいわゆる雪腐病（snow blight）にたいへんかかりやすい樹種で、アカマツ、クロマツなどの国産のマツのみならず、ラジアタマツのような外来のマツもひどい被害をうける。

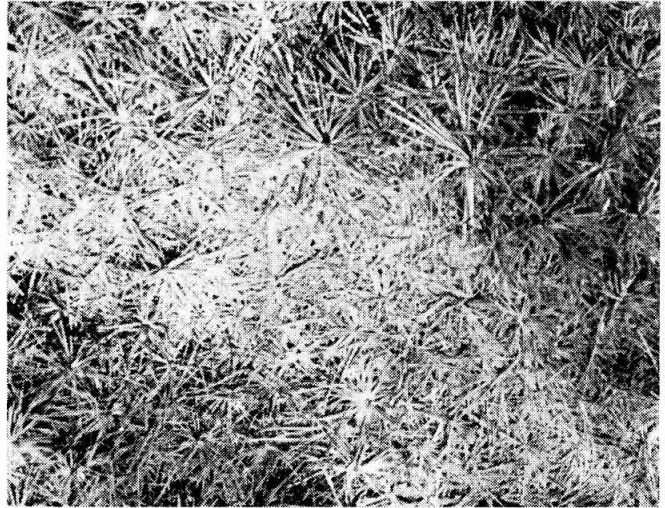
昨年（1954～1955年）は一昨年（1953～1954年）にくらべて積雪が多かったためか、秋田、山形両県下にかなり大発生したところがある。山形県のある林業団体が直営で養成したマツ一回床替苗20万本が今春ひどい被害をうけ、その約80%すなわち16万本内外はこの病気のため激害をこうむり、焼却処分したという。そのいきさつを聞くと、雪の多かつたことも大きな誘因ではあつたが、昨秋早手廻しに苗を掘りとりたば（束）仮植を行つたこと、およびマツに雪腐病がひどく出ることがあまり知られていないためであろうか、薬剤散布その他、病害防除処置に手ぬかりがあつたことなどが、この惨害をもたらしたものらしい。

林業試験場釜淵分場構内苗畑は雪がひじょうに多いにもかかわらず、これまでスギ苗に雪腐病（灰色かび病）が発生したことはほとんどなかつた。今春もやはりスギ苗にはこの病気が認められなかつたが、アカマツおよびクロマツ苗（昨年まき付）にはかなり大きな被害がみられた。すなわち、まき付床に十数cm～数十cmにわたつて団状に発病し、融雪後にみると、健全な苗は緑色であるのに対して、被害部は褐色～灰褐色を呈して、明らかな対照を示した（第1～2図）。

マツの雪腐病はひとり苗にだけ出るものではなく、山地に植付けしてから発生し、特に雪の吹きだまりになる場所や沢通りに近い融雪がおくれるようなところに被害が多く、時としてマツの人工造林失敗の大きな原因になることがある。

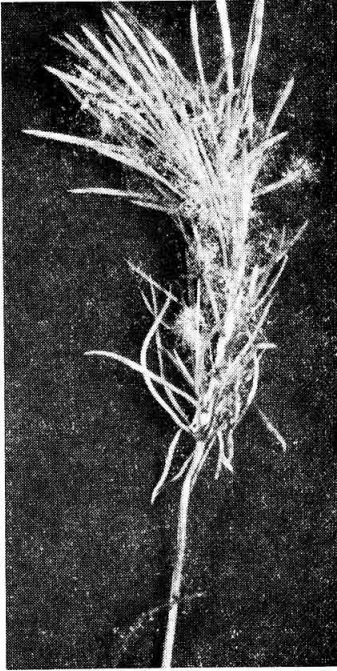
マツ苗雪腐病の病原菌は灰色かび病菌すなわちボトリチス・シネレア（*Botrytis cinerea*）が主要なものである。この菌はスギ苗に雪腐病をおこして大きな被害を与えるばかりでなく、いろいろな針葉樹、広葉樹のみならず農作物や雑草をも侵

す、いわゆる多犯性の菌である。この菌による被害部は、どのような植物の場合でもたいへんよくにていて、患部にねずみ（鼠）灰色の菌糸がおび



第I図 クロマツ苗（昭和29年まき付）に発生した雪腐病（灰色かび病）
—白色にみえる部分が罹病苗—
昭和30年4月26日撮影

第II図 アカマツ苗（昭和29年まき付）に発生した雪腐病（灰色かび病）
—中央の白色にみえる部分が罹病苗—
昭和30年4月26日撮影



第Ⅲ図 アカマツ苗の雪腐病
(灰色かび病)

一苗糸がおびただしくからまりつき、なお小球形状に病菌の孢子塊が形成されている—
(佐藤氏原図)

ただしくからまりつき、またルーベ(拡大鏡)でこれを見ると、やや突出した菌糸の先端に微小な球状体がたくさん形成され、わずかの動揺によつて、病菌の孢子が煙状に飛散する特徴をもっている。

(第3図)

なお最近秋田支場作藤技官の研究によつてマツの雪腐病をおこす別の菌が見出され、その性質もきわめて強いことがわかった。この菌は北海道で

エゾマツ苗やトドマツ苗に雪腐病をおこして激しい被害をおよぼす菌と同じものである。エゾマツの雪腐病菌としてあげられている従来菌名に対して、私どもはいささか疑義をいだいており、これは欧州特に北欧においてトウヒ、モミ、マツその他に雪腐病をおこす、ヘルポトリキア(*Herpotrichia*)菌あるいはこれに近いものではないかと考えているがいまだ子実体(孢子)を見出すことができないので、その所属、菌名を決定いたしかねている。

マツ苗の雪腐病(灰色かび病)は、苗床に苗が密生しすぎた場合、窒素質肥料が多すぎたりして秋おそくなるまで伸長するような苗に被害が大きい。たば仮植して積雪の下で冬を越させるとひどく侵されるのはスギ苗の場合と同じである。一般にマツ苗には薬剤散布をあまり行わないのが普通であるが、この病気を予防するためには、根雪直前にウスプルン加用3斗式ボルドウ液(ボルドウ液1斗に対してウスプルン5匁の割合)またはセレサン石灰(セレサンを消石灰で3~5倍に増量)を1~2回散布してやると効果が大きい。なおこの際には、薬剤は苗木にだけでなく、地表面にもゆきわたるように多くまいてやることである。それは、雪のためにおされて苗の上部が地面に接着してここから病気になるはじめること、および病原菌は積雪下でも地表面を生育蔓延するからである。
(林試釜淵分場長 農博)

鹿児島県下におけるキオビエダシヤクによる

イヌマキの被害状況

横山 淳夫

1. 本県における分布被害経路

キオビエダシヤクの発生は台湾に始まり、徳之島、大島本島、屋久島、種子島の島伝いに九州本土の大隅半島(大根占 1942年頃)及び薩摩半島(枕崎町木原 1951年、山川町岡尻水 1951年)にそれぞれ別途に上陸侵入したものと考えられる。

2. 薩摩半島の被害状況

著るしく被害を受けた地(殆んど全枯死、又は枯死寸前の地)は下記の通りである。

木原(昭26発生)、大塚(昭27)、小湊(昭28)、鉄山(昭28)、大隣(昭28)、別府(昭28)、飯伏(昭27~28)、新牧(昭28)、伊作峠(昭28)

枕崎市の木原及び大塚の両地一帯は果樹園の垣19町歩、元果樹園の垣30町歩、耕地防風林3町歩、宅地防風林1,300戸のイヌマキが大害を受け、

現在(昭30)殆んど枯死の状態にある。小湊は昭和28年頃発生、昭和30年において最も大きな被害を受け、広範囲に亘り今やイヌマキは枯死寸前にある。土中にはキオビエダシヤクの蛹が砂利の如く密集し、その被害の猛烈さが想像される。鉄山、大隣、別府、飯伏、新牧のいずれも同様の被害を受けている。伊作峠は1町歩のイヌマキ林が喰害され枯死寸前に至り、昭和30年同1町歩のイヌマキ林は全林伐採した。

その他穎娃町において50~60町歩(内国有林10町歩を含む)

山川町5,6万本(宅地防風林)、加世田地方約15町歩のイヌマキが枯死寸前にある。

概して、薩摩半島の各沿岸部は何れも大中の被害を受け、このまま放置すればやがて完全に枯死するものと思われる。尚半島中央部一帯も昭和30

森林防疫ニュース

年頃より急速に食害されつつあり、沿岸同様の被害度に至るであろうことが推測される。

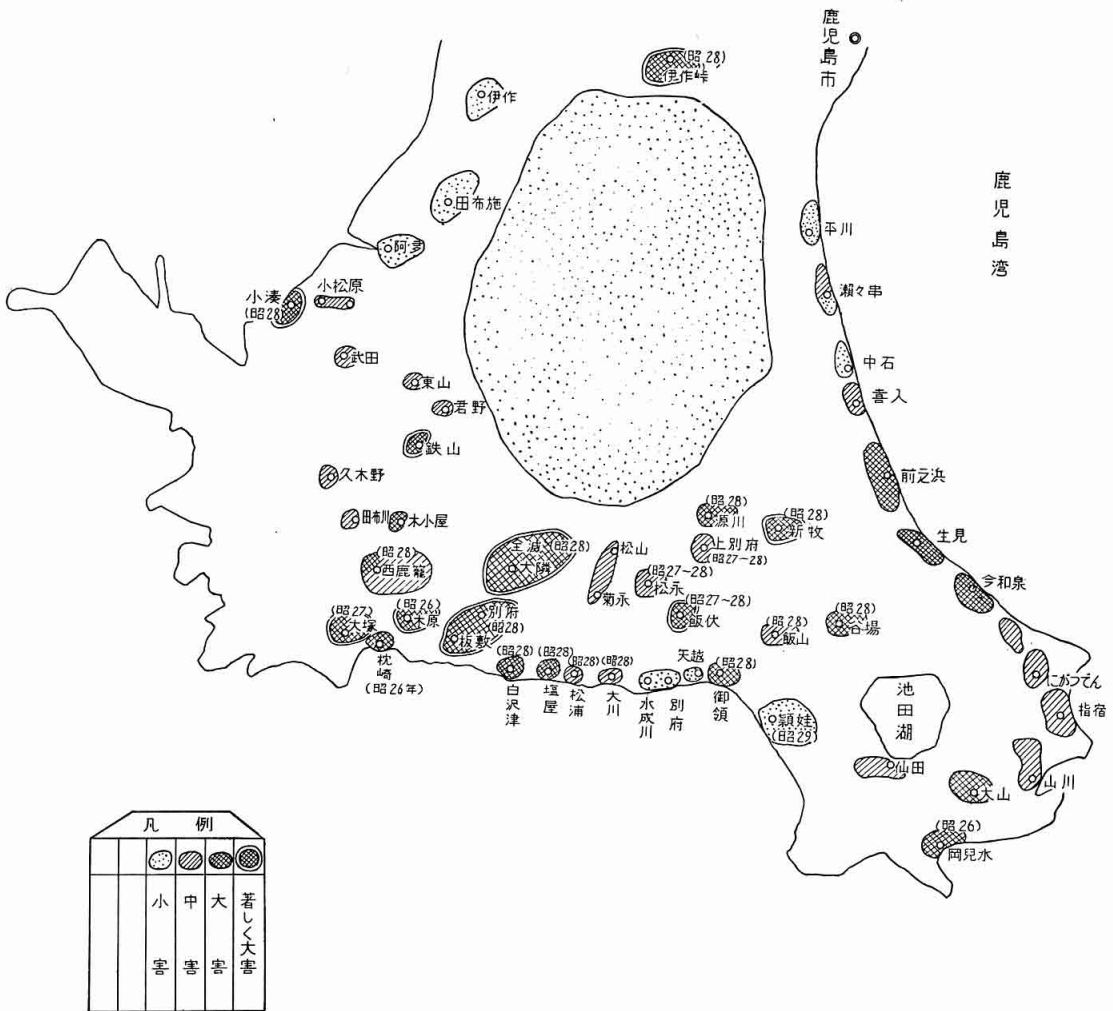
3. 大隅半島の被害状況

戦時中屋久島又は種子島より大根占に侵入、昭和17年頃から3年間この大根占を中心に大発生を見たが一時停頓し、近年昭和26年頃再び発生昭和27年より29年にかけて同地方一帯のイヌマキは大半枯死の状態におかれている。同地方のイヌマキは辺田2,500本、山本丸峰1,500本、横別府500本、川南塩入1,000本である。

作多町一帯は昭和17年頃発生、昭和29年4月には同地方に存するイヌマキの全てが枯死、同じく27年には田代村にも発生、村有林10町歩民有林4町歩は昭和29年の引続きの発生のため殆んど枯死、内之浦町にはイヌマキ4、5万本余り存するが、昭和17、8年頃の発生、昭和25年の大発生、更に昭和27年から29年にかけての大発生のため大半が枯死する。

吾平町は屋敷林として散在するも今の所大した被害もなく、鹿屋、岩川町に至る半島北部にお

第I図 薩摩半島南端部のキオビエダシヤクによるイヌマキの被害分布図



る被害も現在の所軽微の様である。ただ贈嶮郡高松の純林1町歩が全滅している。

4. 鹿児島市及び県下北部の被害状況

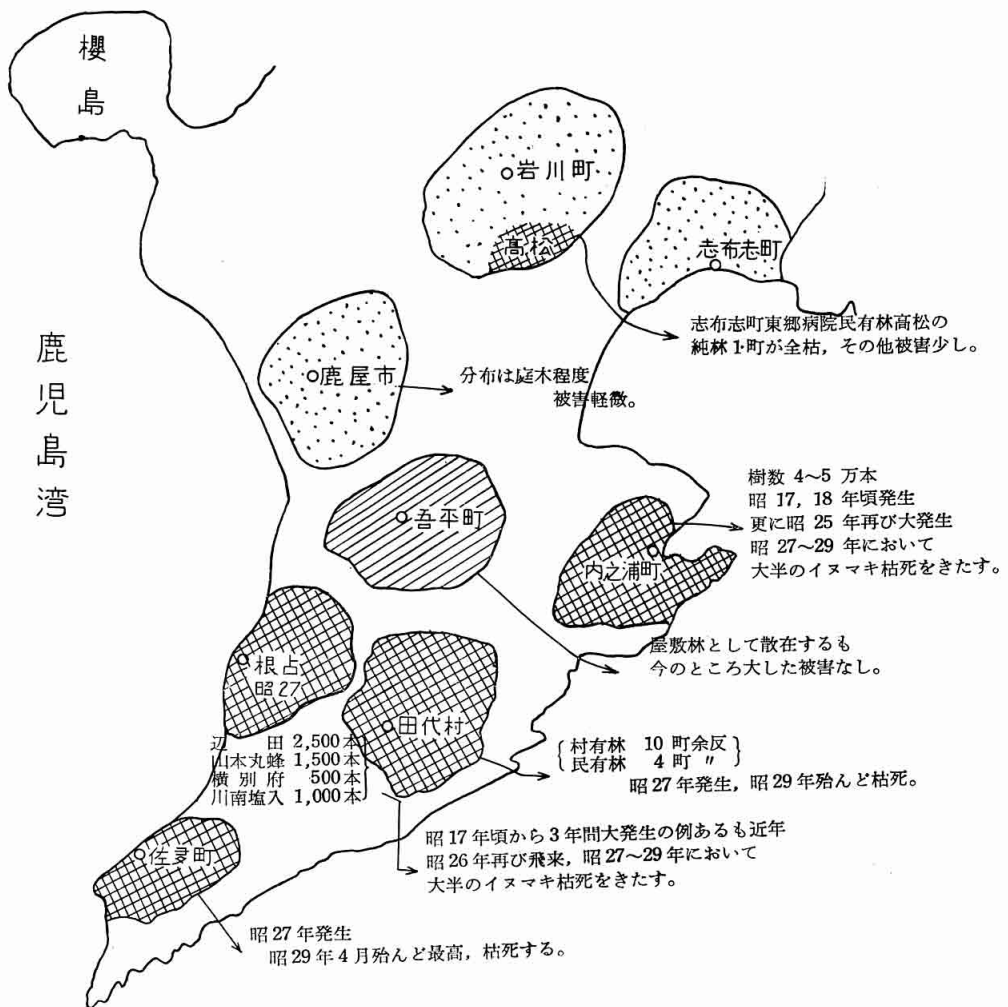
昭和18年鹿児島市城山でキオビエダシヤクを採集した記録があるが、普通一般に眼につく様になつたのは昭和30年になつてからである。

鹿児島市と同様、始良郡、薩摩郡、贈嶮郡北部においても、昭和30年になつて各所に成虫の飛翅を見る程度で、今の所は特に目だつた被害は認められない。

5. 離島方面の被害状況

徳之島では1875年、1900年、1930年前後に、大島本島では1885年、1915年、1922年頃に大発生、沖永良部島及び与論島にも及んだ記録があるが、現在の被害状況は未詳である。種子島、屋久島の被害面積は約39町歩と云われる。種子島においては1943年頃大発生、一旦発生を見ず1948年頃再び大発生をなし、その後毎年連続発生被害を見ている。

第II図 大隅半島におけるイヌマキ被害分布図



大隅海峡

(鹿児島大学教育学部・教授)

観 察

サビヒヨウタンゾウムシ
被害の経過

加藤 銈 治

本県はネキリムシ対策として、BHC 1%粉剤を反当り 10kg 程度を散布整地の上植付する外、被害の発生状況により BHC 水和剤を散布していたのであります。

本県は6月上旬にネキリムシの被害が認められたので、直ちに BHC 水和剤を散布いたしました処、被害は終熄し、好天候に恵まれて、苗木は極めて順調に生育いたしました。7月中旬頃より、スギ、ヒノキの1、2年生苗木の枝葉が生色がなくなり、次第に変色して、苗勢とみに衰えたので、根部を調べると食害されているので、ネキリムシの被害と認め、水和剤を散布するとともに、干害も予想されるので、灌水をするも、被害は拡大してゆくので、更に BHC 水和剤を散布したが効果は、殆んど認められないため、調査を進めると、ネキリムシと異なる幼虫を発見した。被害の多い処にては平方米当り 30 頭の幼虫を認め（8月上旬）成虫は地上を無数に這い廻るのを認めサビヒヨウタンゾウムシであることが判つた。

被害地は、萩野、渋沢、大倉地区が甚しく、その他の地区は、現在の処ほとんど被害はない。然し幼成虫ともに、発見されたので、観察を厳に実施している。

被害樹種、苗令は、ヒノキ2年生が最も甚しく70%枯死する苗畑があり、残苗も根は全部食害されて、生長は停止しているので、来春得苗は皆無ではないかと認められる。平均して 20% 位の枯死率である。次にスギ2年生、1年生、マツ1年生ヒノキ1年生の順で被害を受けている。然し1年生は、枯死するものが少くないので、得苗見込数量を確保できるものとする。3年生は、根部の食害は認められるも、山出得苗には影響はない見込である。（神奈川県林務課・保護・Sp.）

- 左…第I図 被害苗木2年生
- 第II図 サビヒヨウタンゾウムシ幼虫（拡大）
- 第III図 “ “ 成虫（拡大）
- 右…第I図 サビヒヨウタンゾウムシ成虫、幼虫（実物大）
- 第II図 被害苗スギ1年生
- 第III図 “ ヒノキ2年生
- 第IV図 “ クロマツ1年生



スギハダニの駆除

井 幡 清 生

1. 県下の被害状況

被害の発生は5～6年前に、部分的に発見されたものが最初と云われているが、人の目につき出したのは昨年度（昭和29年）で、その後、急激に蔓延し、遂に今年度は約4,000町歩のスギ造林地に、特に幼令林を主として、甚大な被害を与えている。

この被害拡大の原因は、色々あると思われるが特に主だつたものを挙げて見ると、次の通りである。

- (1) ハダニに対する、一般の智識が薄く、大発生に到るまで、放置されていた事。
- (2) 天候がハダニの繁殖に好条件を与えていた事。
- (3) ハダニの繁殖率が極めて旺盛な事。
- (4) ハダニを絶滅に導くに値する、強力、安全且つ経済的な薬剤がなかつた事。

以上であるが(3)については今更述べる迄もない事であるから省略して、順を追って説明する。

先ず、(1)については、相当熱心な山林所有者でも、ハダニが寄生して養液を吸収し、針葉や枝が黄化しても無関心であり、被害が甚だしくなつてから、慌てて被害木の診断を依頼する有様で、それもハダニの被害であると云つても承知せず、実物を取り出して見せて初めて納得すると云う状態であつた。そこで県としても、地区毎に山林所有者を集め、数回にわたつて、ハダニの生態、駆除法について講習会を行つた。

(2)については、ハダニの繁殖期である5～7月に晴天が続き、これの増殖を助長した傾向が、認められる。(4)について、従来ハダニの殺虫剤としては、石灰硫黄合剤が用いられて来ましたが、これは殺卵力を欠く為、相当の回数を繰返さねば効果がなく、又経費も高くなるので大面積の場合は役に立ちません。又最近出来たサツピランは、成虫の殺虫力が弱く、繁殖力の旺盛なハダニの場合は、あまり効果がなかつた様であります。今度の駆除試験は、その後に来た、ネオ・サツピラン（日曹 K. K.）を対象として行つたもので、その結果は後述の通りであります。

次に、被害地の状況を述べて見ますと、一般に南面した、1日の日照時間の多い斜面程、被害が多く、日蔭下の造林木には、全く被害が見られませんでした。被害木の年令相は、可なり広範囲にわたつて分布し、20年生以上のものでも、その梢端部が犯されているものを、屢々見受けました。被害木は、梢端部の生長が全く止まり、下枝が繁



森林防疫ニュース

茂して盆栽状となり、枝葉の緑色部分は、黄褐色を呈しており、被害の著しいものは、赤褐色となり、枯死寸前にあります。併し、概して枯死に到るものは、極めて稀である様に思われます。

2. 駆除試験概要

以上の被害状態から、スギハダニの駆除試験を行つたのでありますが、準備に時日をとられ、一部しか、駆除が行われなかつたのは、遺憾であつた。なお経過は次の如し。

(a) 予備試験

(イ) 要領 各種薬剤を用いて、室内における殺虫力を比較検討した。

(ロ) 方法 ハダニのついている、枝葉(平均長 15 糎)を採集し、附着平均数を算定して後、飼育瓶に 2 本宛入れ、各種薬剤を噴霧器にて散布した。なお、死虫数を判然させる為、下方に白紙を敷いた。

(ハ) 使用薬剤及濃度

- (i) ネオ・サツピラン 1,000 倍液
- (ii) 同 上 2,000 倍液
- (iii) サツピラン 1,000 倍液
- (iv) E. P. N 1,000 倍液
- (v) B-115 1,000 倍液

(vi) 石灰硫黄合剤 ボーメ 0.8°

(ニ) 備考

(i) 薬剤散布はハダニを枝葉につけたまま、行つた方が、よりの確な殺虫効果を知り得ると考えたので、この方法を行つた。

(ii) 1 本の枝葉の平均附着虫数は 86 匹であつた。(10 本を調査した平均)

試験結果は第 I 表の如し。

第 I 表の結果から、ネオ・サツピランの 1,000 倍液が、殺虫力、殺卵力共に最も優秀な成績を、おさめたので、現地駆除には、これを用いる事にした。

(b) 現地試験 [I] (7月12日施行・晴天)

試験区を次の 3 つに分けて、ネオ・サツピランの 1,000 倍液を散布した。概要次の通り。

- (1) 3 年生造林地 (平均樹高 1.4m)
散布面積 1 反歩 (348 本植栽)
使用薬剤量 原液 72gr (水 4 斗に溶解)
- (2) 4 年生造林地 (平均樹高 1.8m)
散布面積 1 反歩 (307 本植栽)
使用薬剤量 原液 108gr (水 6 斗に溶解)
- (3) 無施薬区
経過は第 II 表の如し。

第 I 表 昭和 30 年 7 月 1 日 実施

	附着ダニ数 (成虫, 蛹 成体)	附着卵数	1時間後 の死虫数	2時間後 の死虫数	4時間後 の死虫数	10時間後 の死虫数	24時間後 の死虫数	48時間後 の死虫数	殺虫率	48時間後 の孵化率
サツピラン ×1,000	176匹	74個	12	36	121	135	138	142	% 80.68	0
ネオ・サツピラン ×1,000	182	28	84	163	181	同右	同右	同右	99.45	0
ネオ・サツピラン ×2,000	165	45	31	114	131	146	148	149	90.30	0
E. P. N. ×1,000	175	36	75	125	127	130	132	同右	75.43	0
B-115 ×1,000	161	32	8	15	32	38	40	同右	24.84	16%
石灰硫黄合剤 ボーメ 0.8°	168	25	85	159	164	同右	同右	同右	97.62	24%
Control	188	43	0	0	0	0	0	0	0	22%

第 II 表 生存虫数調査 (1本の木についている平均虫数)

	散布 1日後	〃 2日後	(7月19日) 1週間後	(7月22日) 10日後	(8月1日) 20日後	(8月11日) 30日後	(8月21日) 40日後	備考
3 年生造林地	12匹	7	10	27	2	4	6	7月21日~23日 の間に降雨あり
4 年生造林地	16	5	7	18	6	3	11	
Control 区	1,360			1,820	58	70	920	

[註] 使用器具 背負式自動噴霧器

薬剤散布所要時間 3 年生地区 15 時間 4 年生地区 2.5 時間

森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

現地試験〔Ⅱ〕（8月9日施行・快晴）

駆除面積 2.5 反歩（反当り 350 本植栽）
 駆除対称 5 年生スギ挿木造林（平均樹高 1.9 m）の重害地
 使用薬剤 ネオ・サツピラン 1,000倍液 原液 100gr 入 3 本（水 1 石 6 斗に溶解）
 所要人夫 2 人×4.0 時間
 使用器具 動力噴霧器 1 台

3. 経費関係

駆除対称の面積が、極めて小さいので、これから一般的な駆除経費を算定する事は、無理であるが、一応参考迄に、所要経費を算出して見ると第Ⅲ表の如くとなる。

4. 結 び

以上が今回の駆除試験の概要であるが、この試験の主眼点は、ネオ・サツピランの殺虫、殺卵効果を検討する事は勿論であるが、更にこの薬を用

いた場合、如何程の経費がいるか、と云う事を調査する事であった。そして、この結果から 1 町歩当り約 2,500 円（平均）を得たのであるが、実際の駆除に当っては、水の不便な事が多いので、その点を考慮すると、可なり高いものになつて来ると思う。

試験中、特に感じた事は、やはり水の点であり粉剤の要望を各地で耳にした。（なお現在、日曹にネオ・サツピランの粉剤の試作を依頼し 3% 粉剤の供試品を送つてもらい、その殺虫力を調査中である）

又、造林木中、吉野系のスギは割合に害を受けておらず、将来抵抗性品種の問題も考えられると思う。害虫伝播の予防として、苗畑の消毒が大切である。被害地には、テントウムシの幼虫が多く未だ確認はしていないが、或は天敵でないかと考えている。

第 Ⅲ 表

区 分	3 年 生 造 林 地	4 年 生 造 林 地	5 年 生 造 林 地
反 当 植 栽 本 数	348 本	307 本	350 本
平 均 樹 高	1.4 m	1.8 m	1.9 m
駆 除 面 積	1 反	1 反	2.5 反
使 用 原 液 量	72 gr	108 gr	300 gr
所 要 時 間	1.5 時間×1 人夫	2.5 時間×1 人夫	4.0 時間×2 人夫
所要経費（人夫賃薬価共）	178 円	278 円	810 円
1 町 歩 換 算 経 費	1,780 円	2,780 円	3,240 円
1 日 の 工 程	（背負式噴霧器使用） 1 人 で 5 反	（同 上） 1 人 で 3 反	（動 噴 使 用） 2 人 で 5 反

〔註〕 ネオ・サツピランの価格は 100gr 入のものが 170 円、500gr 入のものが 680 円であり、本試験では 100gr 入のものを用いたもので、500gr 入のものを用いれば薬価は 2 割程度、安くなる。

人夫賃は 1 人 1 日 8 時間とし、1 日の賃金を 300 円として計算した。

試験地は概して水の便に富み、又所要時間の中には薬剤調製の時間も含まれている。

（佐賀県林業試験場・保護 Sp.）

質疑応答

マツ苗の病害

【問】 マツの被害苗を送付しましたからお調べ下さい。(熊本局・高崎営林署)

【答】 1.病名、まつ苗枯病(まき付苗及び床替苗)

2.病原菌、本病は「ペスタロチア」菌の寄生によるもので降雨中に本菌の被害を受けたときは病状を認め難いが晴天になると急激に嫩葉の先端から黄色に変るものが多くなり又嫩茎の生長中のものは嫩茎が下垂してくる。

3.防除法、嫩茎の下垂したもの、針葉の枯死激甚なもの及び枯死苗は除去して焼却し4~6斗式石灰等量ボルドウ液を4月から10月までの間月2~3回散布すること。

(林試宮崎分場)

刊行物紹介

佐賀県 佐賀の林業 第31号

崎田 善七:夏の森林害虫

岐阜県 岐阜の林業 第5巻 第5号

棚橋 技師:森林の害虫について

農林省林業試験場 研究報告 No. 81.

寺下隆喜代:ユーカリの病害に関する二、三の研究

高井 省三

青島 清雄:エゾマツの青変菌 *Endoconidiophora*

林 康夫: *coerulescens* MÜNCH の研究

野原 勇太:スギの赤枯病防除に関する研究(第III報)

陳野 好之

樹木炭疽病の研究—II

伊藤 一雄:キリに寄生する *Glomerella* 菌

千葉 修

佐藤 邦彦:地中のスギ種子を侵害する菌類と種子消毒の効果
樋口輔三郎:野外における殺鼠剤 Warfarin の駆除効果について

林野庁編 林業技術普及員研究論文集

第一集 1955

加藤 銈治(神奈川) BHC 粉剤による苗畑のネキリム

シ防除法の普及実績とその検討

王子造林株式会社 王林 10月号

大森 育夫:野兎

岡山県林務部 林業普及 第35号

林業普及係:くりの殺虫貯蔵

北海道林業改良普及協会 山つくり 10月1日

館山 SP:野鼠の棲息場所

前橋営林局 山脈 9月号

加辺 正明: Scolytinae 亜科に属するキクイムシの喰痕研究

熊本県 熊本の林業 10月号 第173号

渡辺 貞敏:今年の松くい虫駆除について

秋田営林局 蒼林 9月号

佐藤 邦彦:秋から冬までの苗畑病害防除作業

東京都 林業普及だより 9月30

:狩猟免許等について

雑 録

燻煙剤による森林害虫の防除試験

— 蓼科山麓 —

8月24~28日、長野県下蓼科山麓のカラマツ林で、森林害虫防除室、林業試験場保護部、諏訪営林署が中心となり、長野県林務部、茅野町役場、燻煙剤協会の協力によつて、燻煙剤による防除試験を行つた。24~25日は試験地の設定、気象観測、26日は予備試験、27~28日は試験実施と試験結果の調査を行つた。実験に使用した燻煙剤は4種であるが、8体 150グラムを含んでいる。

25メートル間隔に 4~6ヶを配置して一斉に点火した。煙は林冠の内部へ拡散してゆき、50メートル前方で一団となつて前進するのがみられた。

対象害虫はトビスジマダラメイガで最初の供試虫としては適当でなかつたが、18時間後の調査で殺虫効果は或程度確認できた。27日は吉川農林政務次官をはじめ東京、地元の視察者を合せると 100名近い人数が現場に集合、この実験に参加した。

昭和30年度保護専門技術普及員現地協議会

9月5日から林業講習所を会場に開催された。5日間わたる日程は第1、2日目の農業を中心とする聴講にはじまり、各都道府県の森林害虫とその防除状況について出席者による発表、つづいて共立農機工場では農業散布機具、三共三島工場では粉剤の製造工程と管理を視察またその間に当面する諸問題の討議をまじえ、多くの内容がもりこまれていたが、熱心な全員の協力により終始とどこおりなく進行し、9月9日午後解散した。出席者は43名である。なお、講義の題名とお願した講師は次の通りである。

9月5日

「林業で使用されている農業とそのねらい」

林試 今関保護部長

「農業の種類と使用形態」 林試 昆研 大久保技官

「林業に導入された薬剤防除とその合理的実施」

林試 藍野昆虫科長 同 野原樹病研究室長

9月6日

「農業の時事問題」 三共農業学術課長 桑田博士

「航空機による薬剤散布について」

林試 藍野昆虫科長

「薬剤散布と森林気象」 千葉大学 中原博士

「農業の取扱と中毒」 慶応大学 上田博士

訂正 Vol. 4, No. 9, P. 176 「石川 石川郡下」の次に「鳥越村」を追加する。(防除室)